

私からはじめるまち育て

レポート
vol. 1



外部講師

株式会社ナゴノダナバンク
藤田まや氏



私からはじめる 賑わいの育て方

知立駅周辺エリアは大規模なインフラ整備により、まちが大きく生まれ変わりつつあります。昨年度から新しい知立駅とその周辺地区をどんなまちにしていきたいか、まちのあり方を考え、アクションにつなげるための議論を進めています。今年はより議論を掘り下げるため、主要なテーマにまつわる話題提供とディスカッションを通じて、未来の駅周辺を想像し、いまの私たちにできることを考えていきます。

第1回は令和5年8月28日(月)に、「商業と賑わい」をテーマに開催しました。子どもからシニアまで幅広く市民や市内事業者などの30名が集まりました。

話題提供

商業と賑わい

地域経済の振興と賑わいのための空間や仕組みづくり

今回のワークショップの話題提供として、円頓寺商店街を皮切りに様々な地域のまちづくりに取り組まれている藤田さんにお話を伺いました。

まずは藤田さん本人のルーツとして、円頓寺商店街にある実家の化粧品店の話がありました。大学生の頃に周りのお店が減り「このままだと商店街が無くなってしまわないか」という危機感を覚えた体験や、自身が子供の頃から親しんだアーケードは、祖父の身を削る想いで作ったものであったというエピソードなどから、当事者としての強い想いを感じました。

まちづくりをはじめににあたつて、まず藤田さんは、地元の人、まちに興味がある専門家、イベント出店などを通じて途中から地元の人になった人など、多面的なメンバーの集まり「那古野下町衆」の立ち上げに関わりました。

地元の掃除や行事に参加したりなどコツコツと関わっていく姿勢から地元への想いやリスペクトが感じられました。

その活動の中で、「パリ祭」が開催されることになりました。そのまとめ役となった藤田さんの、説明行脚や地元店舗の出店調整など、根回し役としてご苦労されたお話は、新たな発想を地元につなげる事ができる、藤田さんの人間力を感ずるものでした。

そして、「パリ祭」は大成功し、その影響で、円頓寺商店街は外部のイベント利用の場としても評判になっています。藤田さんはその分析として、①円頓寺商

店街にはずっと続いていた地元のお祭りの集まりがあり、一同で何かをやるコミュニティが存続していたこと、②アーケードがあったことでエリアとしての連帯感があったことの2点を挙げていました。

続いては、地元の人それぞれの理由で活用できていない空き店舗をマッチングしたり活用する活動から始まった「ナゴノダナバンク」での話。活動を続ける中でギャラリーやバル、ゲストハウスなど徐々にユニークな店が増えたことで、まちの雰囲気も変わりはじめ、円頓寺商店街の地価も上がり注目度も高まっています。ただし、どんなお店でもよい訳ではなくて、未来のまちの姿を想像した上で、業態やお店を選んでいくことが必要だと言います。実際に店舗を自分で購入する決断をしたというお話は大変興味深かったです。

また、ナゴノダナバンクは他の地域のサポートも手掛けています。「商店街オープン」という事業では、その地域に何が必要か考え、協働するためのコミュニティを作るための人材育成を、名古屋、春日井、東北の陸前高田などで行い、幅広い活動を展開されています。イベントをむやみに行うのではなく、その地域の人や届けたい相手を考えながら、場所を活性化する波及効果を大切にしているというお話が印象的でした。それぞれの「地元」に丁寧に関わり、多様な人達と協働する姿勢は、様々な場面で必要な姿勢であると感じました。

知立駅南振興会の 課題とニーズ

外部講師からの話題提供の前に、市内で活動する方々がそれぞれの活動を発表されました。

一人目は知立駅の南側エリアの多様な事業者の集まりである知立駅南振興会会長の押金さんに、活動報告とニーズ課題についてお話をいただきました。活動としては、小学校への防犯ベルの寄贈など地域課題へ取り組みに加え、「コミュニティ」として他業種の会員が交流したり相談出来る横のつながりができることが利点」として話されていた点と、自分たちは商いをしているという発言が印象に残っています。

振興会はただのボランティアではなく、地域が良くなれば、自分たちの商売も良くなるという、地域の循環を大事にされています。

地域講師
知立駅南振興会
押金氏



知立ドリームマルシェを 通じた賑わいと商機

二人目の登壇者は、市外からの来場者も多いイルミネーションや子育て世代が多く集まるマルシェなどを定期的に開催する、ゆめ



地域講師
一般社団法人 ゆめナビジャパン
角田氏・兵藤氏

ナビジャパンから角田さんと兵藤さんにお話をいただきました。

まず、ゆめナビジャパンは青少年育成を目的とした知立ドリームイルミネーション実行委員会を前身に、人づくりと街づくりのための団体として設立されています。

市民と学生でつくるイルミネーション、子どもたちが遊ぶお菓子詰め放題やステージなどが充実したマルシェなど、エンターテインメントと地域活性化を結びつけた内容の裏側には、アンケートにより市民のニーズを調査しているという点が多く、市民に喜ばれるイベント作りに繋がっていると感じました。

「イベントで人が集まり、賑わいが生まれ、そうすれば店が増える」という「人」を中心にしたまちづくりの視点は、地域に暮らすみんなが街づくりの主役であるということを変更して感じさせられました。

子どもたちが参加するオーロラツアーやピラミッドツアーの実現も目指されているとのこと、今後みんなが喜ぶようなイベントに期待です。

話し合いの 成果

参加者は班ごとに分かれ、知立駅周辺の「商業と賑わい〇〇カ条」を話し合い、まとめた意見を発表しました。

A班 ①名鉄電車タワーを作ります ②おしゃれな喫茶店を作ります
③市役所を新築移転します

B班 ①みんなで作るマルシェイベント ②にぎわいをつくる“人とのつながり”
③にぎわいになるとがったハード面 ④ほっとできる居場所 ⑤みんなに愛されるPR

C班 ①若者の力 ②コミュニティをまとめる人材 ③年齢に関係なく参加できるイベント
④若い力を引き出す仕組み ⑤特定の誰かが利益を得ることがないように

D班 ①知立のファンづくり ②昼でも雨でも楽しい場所作り ③若い世代の声をきく
④歴史+テクノロジー ⑤知立裏情報発信

E班 ①まずはできることから行動（SNS、ボランティア、参加）②全体プロデュースが必要
③地元企業が利益を地元に戻元 ④地元住民が交流する場をつくる
⑤知立の名所を作る（スポーツ、ランドマーク、横丁）

Pick up!
みんなの
共通意見

目的となるスポットを!

イベントが日常的になる場所
+特別を楽しめる場所
(歴史、スポーツ、観光 etc.)

誰もがほっとできて
気軽に集まれる
居場所づくり!
雨でも OK

知立の風景を育む!
電車からの景色が気になる

コンセプトを打ち出して
プロデュースする!
とがった視点

人やコミュニティの重要さ!

地域の人や若者が
気軽に活動できる機会
+それをサポートする人

情報 PR からの
「知立ファン」づくり!
SNSを活用
コアな裏情報も
話のネタに

終了後のアンケート紹介

- 自分が考えていることとまた違った意見を聞くことができてとてもおもしろかったです。もっと知立市のまちづくりについて興味をもてました。
- 行動力に感動しました。私も微力ながら何かやりたいという思いが強くなりました。

発行日：2023年9月29日

発行：知立市市民部 経済課 商工観光係

TEL) 0566-95-0125 (直通)

Mail) keizai@city.chiryu.lg.jp

協力：大日本ダイヤコンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育み隊